

日本放送協会 理事会議事録

(平成27年 7月14日開催分)

平成27年 7月31日(金)公表

<会議の名称>

理事会

<会議日時>

平成27年 7月14日(火) 午前9時00分～9時25分

<出席者>

靱井会長、堂元副会長、塚田専務理事、吉国専務理事、板野専務理事、
福井専務理事、森永理事、井上理事、浜田技師長、今井理事、
坂本理事、安齋理事
上田監査委員

<場所>

放送センター 役員会議室

<議事>

靱井会長が開会を宣言し、議事に入った。

付議事項

1 審議事項

- (1) 総務省「4K・8K試験放送の実施に向けた関係省令等の一部改正案に関する意見募集」に対する協会意見の提出について

2 報告事項

- (1) 放送技術審議会委員の委嘱について
- (2) 2015年6月全国個人視聴率調査の結果について

議事経過

1 審議事項

- (1) 総務省「4K・8K試験放送の実施に向けた関係省令等の一部改正案に関する意見募集」に対する協会意見の提出について
(メディア企画室)

総務省は、平成26年9月に「4K・8Kロードマップに関するフォローアップ会合」の中間報告をとりまとめ、28年に衛星放送（BS）で4Kと8Kの試験放送を時分割で実施するロードマップを公表していました。今回、総務省は、この中間報告を踏まえ、4K・8K試験放送の業務の認定に必要な事項等について、関係省令等の一部改正（案）を公表し、7月17日まで意見募集を行っています。これに対し、NHKとして意見を提出することとしたいので、審議をお願いします。

提出意見は次のとおりです。

「平成26年9月に公表された『4K・8Kロードマップに関するフォローアップ会合』の中間報告で示されたロードマップにおいては、衛星基幹放送による4K及び8K試験放送を衛星セーフティネット終了後の空き周波数（BS）を使用して、2016年に開始するとしています。今回の改正案は、このロードマップを具現化するために必要な措置であると考えます。

NHKは、4K・8K衛星放送について、2018年までの実用放送の開始及び2020年の本格的な普及に向け、引き続きコンテンツ制作及び放送機器の開発に取り組んでまいります。」

また、個別の事項に関する意見は、次の3点です。

- 1点目は、試験放送で指定された放送時間帯の変更についてです。

「放送事業者がその指定された放送時間帯を変更しようとする際の手続きはなるべく簡便なものとなるよう、また放送事業者が必要により変更の申請を行った際には、可能な限り迅速に変更していただけるようご配慮いただきたいと思います。」

- 2点目は、試験放送業務の認定の審査基準に関して、4Kと8Kの放送時間の割合についてです。

「4K放送、8K放送の業務のいずれも行うものであることは、4K

放送、8K放送の円滑な普及の観点から妥当であると考えます。一方、4K放送、8K放送の具体的な割合については、放送事業者の自主的な判断に委ねていただきたいと考えます。」

3点目は、同じく審査基準に関して、基幹放送事業者の識別、および4Kか8Kの識別の措置についてです。

「『基幹放送事業者の別』及び当該超高精細度テレビジョン放送が『4K放送か8K放送かの別』を明らかに識別することができるようにするための措置の具体的な内容については、放送事業者に委ねていただきたいと考えます。」

以上の内容で決定されれば、これをNHKの意見として総務省に提出します。

(会 長) 原案どおり決定します。

2 報告事項

(1) 放送技術審議会委員の委嘱について

(浜田技師長)

放送技術審議会委員の委嘱について、報告します。

田中弘美氏（立命館大学情報理工学部 教授）に、平成27年8月1日付で新規委嘱します。

なお、荒川薫氏（明治大学総合数理学部 教授）は、平成27年7月31日付で任期満了により退任されます。

(2) 2015年6月全国個人視聴率調査の結果について

(放送文化研究所)

2015（平成27）年6月に実施した、全国個人視聴率調査の結果について報告します。

調査は6月8日月曜日から14日日曜日までの1週間、全国の7歳以上の男女3,600人を対象に、配付回収法による24時間時刻目盛り日記式（個人単位）で実施しました。有効数は2,387人、有効率は66.3%でした。調査週の状況は、月曜日の夜間にG7安倍首相記者会見が総合テレビで中継されたほか、「FIFA女子ワールドカップ2015」の1次リーグがあり、火曜日と土曜日に、BS1やフジテレビなどで日

本戦の中継がありました。

テレビ視聴時間の推移を見ると、NHKと民放の地上波・衛星波を合わせたテレビ総計は3時間40分前後で、10年前から大きな変化はありませんが、男女年層別のテレビ視聴時間については、年層によって変化が見られます。テレビ視聴時間は高年層ほど長く、男女とも70歳以上では5時間を超えている一方で、男30代以下や女7～19歳では2時間を切りました。10年前と比べると、男女13～19歳、20・30代や男60代で減少傾向にあり、年層差が大きくなっています。

週間接触者率の推移を見ると、総合テレビの週間接触者率は前年より減少し、この20年で最も低い2012年と同程度でした。民放地上波計・テレビ総計は、2011年以降漸減傾向にありましたが、今年は下げ止まっています。

総合テレビ・Eテレ・衛星放送・ラジオの個人視聴率の概要について説明します。

まず、総合テレビです。男女年層別の週間接触者率は、男女7～12歳、女40代が前年から減少したほか、男40代や女30・50代もこの5年間の中では低い水準となりました。今回初めて、男女ともに60代の接触者率が80%を切りました。大きく分けると、男女7～12歳の子ども、女性を中心とした30～50代の中年層、および60代の高年層が低めに出たことが、今回の全体の接触者率の減少に影響していると考えられます。

全国を9ブロックに分けた地方別の接触者率は、関東・近畿は前年と大きく変わっていませんが、前年高かった東北で減少したほか、今年は中国・四国・九州で低めとなり、60%を切りました。

平日30分ごとの平均視聴率の変化を見ると、平日8～10時台、12時台後半～13時台前半、19時台後半で、前年より視聴率が減少しています。

総合テレビでよく見られた番組は、連続テレビ小説「まれ」、「ニュース7」、「鶴瓶の家族に乾杯」、「おはよう日本」などでした。

時間帯・番組別に、2012年以降の推移を分析しました。平日8時台の視聴率は、「まれ」、「あさイチ」ともに前年より減少しました。「まれ」は女30代で減少し、両番組ともに女30～60代で低めの値となっています。特に女30・40代は、総合テレビの週間接触者率の低下

に影響したと考えられます。

平日夜間（19～24時）の接触者率は、男女7～12歳と男20・40代で前年より減少し、特に男女7～12歳や男40代は週間接触者率の低下に影響したと考えられます。男60代や女40～60代でも、この4年間を通して見ると減少傾向にあります。

平日19時台の視聴率は、「クローズアップ現代」が全体で前年より減少しました。男女年層別では男60代で減少し、女60代もこの4年で減少傾向にあるほか、「ニュース7」も男60代で20%を切り、減少傾向にあります。

平日20時台の視聴率は、番組によって状況は異なりますが、おもに40歳以上の各年層で減少傾向にあります。月曜日の「鶴瓶の家族に乾杯」は男40代で前年より減少し、男50・60代でも低めに、火曜日の「歌謡コンサート」は男70歳以上や女50・60代で、この4年を通して見ると低く、水曜日の「ためしてガッテン」は男40代で前年より減少し、女60代でも低めになりました。これまでは、年によって7～12歳にもある程度視聴される番組がありましたが、今回はいずれの番組も見られなかったことが、全体の接触者率にも影響したと思われる。

土曜日夜間の状況は、今年度改定した土曜日19時30分～20時45分の「ブラタモリ」と「超絶 凄ワザ！」の接触者率が、男13～19歳で前年より増加したほか、男50代で前々年から増加するなど、やや年層の広がりがみられています。

日曜日夜間の状況は、「ダーウィンが来た！」と大河ドラマ「花燃ゆ」の視聴率が前年より減少しました。特に女60代ではいずれの番組も減少しており、週間接触者率の低下に影響したと考えられます。

次に、Eテレの週間接触者率の推移です。今年度は25.7%で、2009年以降、長期的に漸減傾向にありますが、男女7～12歳は52%で、前年に引き続き、堅調に推移しています。

続いて、衛星放送については、自宅で衛星放送を見ることができる人の割合は51.1%で、5割を超えたのは2011年以来となりました。BS1・BSプレミアムの週間接触者率は、2012年以降は横ばいで推移しています。民放衛星計は前々年から増加し、NHK衛星計とともに20%を超えています。

男女年層別の接触者率の推移を見ると、NHK衛星計は男女60代以上、民放衛星計は男50代以上と女60代以上で全体と比べて高く、男女70歳以上はこの4年間で特に高めでした。また、今年はNHK衛星計で男20代、民放衛星計で男20・30代も、この4年で高い水準になりました。

最後に、ラジオ全局計の週間接触者率の推移です。2009年から2011年にかけて減少し、その後は横ばいの状況が続いていますが、NHKラジオ計は長期的に安定しています。

(井上理事) NHK衛星計で男7～12歳の接触者率が上がっていますが、どのような番組の影響でしょうか。

(放送文化研究所) 「まれ」の先行放送や、スポーツ中継の影響だと考えられます。

(会 長) NHKの接触者率が全体的に落ち込んだという結果を、我々は深刻に受け止めて考えなければいけないと思います。衛星放送の接触者率は上がっていますが、これが地上波の落ち込みを補っているとは言えないでしょう。特に、放送担当理事には、真剣に考えていただきたいと思います。

以上で付議事項を終了した。

上記のとおり確認した。

平成27年 7月28日

会 長 靱 井 勝 人